

NIHOCHICA

ニホンのチカラ発見マガジン<ニホチカ> supported by OCN

グローバルな時代だからこそ、私たちの暮らす「日本」の良さを再発見してみませんか。
日本全国の旬な話題をピックアップして「日本」のモノ・ヒトのチカラをご紹介しますメールマガジンです。

[画像が表示されない場合はこちらをクリックしてご覧ください。](#)

2014年10月号 vol.11



今月は5名さまに、「47CLUB×RING BELL」グルメギフトカタログをプレゼント！

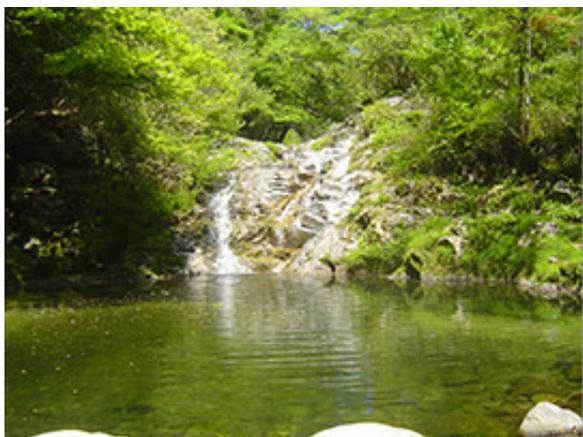


紅葉の名所として名高い茨城県高萩市の花貫溪谷は名馬里ヶ淵、不動滝、汐見滝吊り橋などの景勝地が広がる自然の宝庫で四季折々の溪谷の自然を楽しむことができます。秋の観光シーズンは県内外から多くの観光客が訪れます。

四季折々の溪谷美

花貫溪谷の中間地点に位置する汐見滝吊り橋は、溪谷最大のビュースポット。

花貫溪谷に架かる長さ約60メートルの汐見滝吊り橋は、川沿いに生い茂る木々の枝が左右からせり出し、季節とともに移り変わる自然の姿を楽しむことができます。秋は華やかな紅葉のトンネルとなり、溪谷最大のビュースポットです。眼下に勢いよく長れ落ちる汐見滝の姿や小さな淵をぬって流れる花貫川の清流は、土岳や多賀山系からの水を集め、太平洋に注ぎ込みます。丸みを帯びた大小さまざまな石の間を縫うように流れる清流と川のせせらぎが心地よいものです。



常陸国風土記にも登場するこの地の伝説や神話が数多く残っています。淵に立たずみ往時をしのんで歴史ロマンに浸るのも一興。

名馬里ケ淵(なめりがふち)は、森の中にひっそりとたたずみ、馬にまつわる伝説が存在しています。高萩市発行の「高萩の昔話と伝説」によると、淵で遊んでいた雌馬が角のある竜のような体をした子馬を出産し、奇怪なしぐさをする子馬を恐れた村人らが子馬を淵の中に投げ込み沈めたところ、激しい雨風が続き、大洪水で村が流されてしまったとある。この洪水は1745年5月9日に実際にあったもので秋山村内新田にあった野々平は、この洪水によって壊滅。今でも、名馬里ケ淵に石を投げ込むと雨が降るといわれています。



国内では珍しい海が見える花貫ダム。秋の紅葉、春の桜と同時に雄大な大太平洋の眺望を楽しむことができます。

花貫溪谷の近くにある花貫ダムは国内では珍しい海が見えるダムとして知られています。ダムから海まで直線距離で10キロメートル以内であることや、山間部下流で開けた場所に建設されたこともあって、ダムの天端からは大太平洋を望むことができ、秋には紅葉と太平洋の眺望を同時に楽しむことができます。1985年に県民に投票された茨城百選で第二位にも選ばれました。花貫ダムの堤防下に広がる花貫さくら公園では、4月上旬ごろには、高萩市出身の植物学者・松村任三博士が命名した「ソメイヨシノ」約300本が満開を迎えます。



高萩ブランドのスイーツや新鮮野菜を取り扱っています。秋の行楽シーズンには臨時支店を設置しています。

花貫物産センターは、高萩ブランドの焼菓子や常陸大



黒あんぱんをはじめ、地元の新鮮野菜などを販売する直売所です。花貫溪谷に隣接しており、秋の行楽シーズンは都内や千葉県内などから大勢の観光客がツアーバスで訪れます。同センター利用組合の佐川恵子組合長によると毎年10月中旬から11月末まで花貫駐車場に支店を設けるなど秋の行楽客の利便性を図っています。



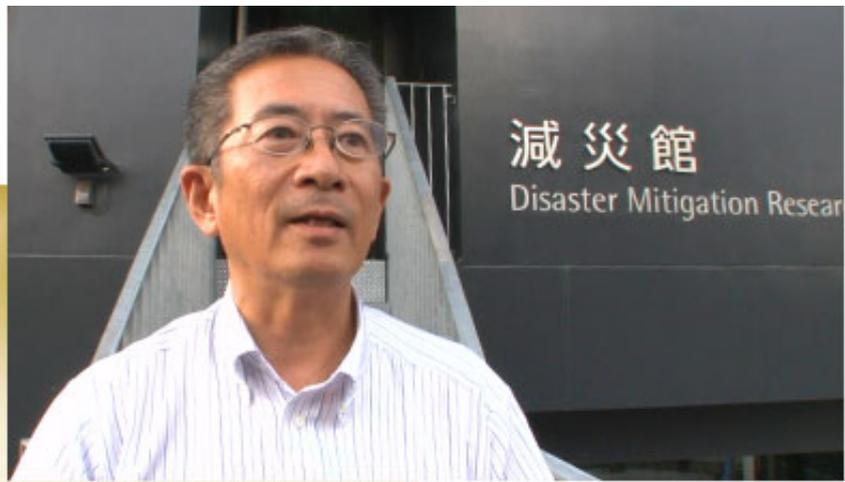
歴史を感じる県指定文化財では期間限定の古民家レストランをオープン。

県指定文化財の穂積家住宅は、寛政元年(1789年)に建てられ、市の文化財から県の文化財へと保存されるにあたり、全国から職人が駆け付け、大規模な改修工事を行いました。屋根の瓦葺職人は福島から来て、2,3年をかけて工事が行われました。現在では大きな茅葺きの屋根が美しい日本建築の素晴らしさを知ってもらうべく、その穂積家住宅を利用して、紅葉シーズンには季節限定のレストラン「高萩・萩の茶屋」をオープン。江戸時代に描かれた屋敷絵図にもほぼ現状の姿をとどめ、貴重な文化遺産を感じることができます。



日本を元気にするドキュメンタリー番組「夢の扉+ (プラス)」をプレイバック！
熱い志と深いビジョンをもって社会を切り開き、“誰かの幸せ”や“関わる人々の幸せ”のために、未来を切り開こうと高き志と熱い情熱で立ち向かっているニッポン人をご紹介します。

docomo presents
夢の扉+
 NEXT DOOR
Play back
 from TBS



災害に負けない市民をつくる！ 減災の伝道師」が日本の未来を守る。

災害を防ぎきることはできない。でも少しでも減らす努力をしたい。

厳しい物言いで危機意識を引き締める！国の防災戦略をも動かした「減災講演」。

地震大国・日本、その将来を本気で憂う人物がいる。名古屋大学教授・福和伸夫(57歳)、耐震工学のスペシャリストだ。独自の防災哲学を持ち、最新の技術で耐震研究を進める一方、市民の防災意識を高める「減災の伝道師」としての顔も持つ。12年前から福和が行っている“減災講演”は、机に中学生を立たせて家の揺れを実演する、自作模型で建物の揺れを比較して見せる、など分かりやすさが特徴だ。しかし真骨頂は、普段ゆるみがちな危機意識を手厳しい言葉で引き締める“減災のショック療法”。講演会場に赴けば、抜き打ちの防災チェックで不足箇所を厳しく指摘し、参加する行政担当者への追及も容赦ない。これまで重ねた講演は東海地方を中心に1,500回を越え、その成果は6大都市の耐震改修工事を行った割合で、地元の名古屋がトップになったことにも現れた。そして、2006年には時の総理・小泉氏に耐震化の必要性を説き、国の防災戦略をも動かした。

耐震研究だけで地震被害は減らせない。人々の意識を変えて耐震補強を急げ！

福和が減災の啓発活動に力を入れる理由。その原点は、1995年1月に起きた阪神・淡路大震災にある。当時、耐震研究の最前線にいた福和は、巨大地震の前にすべての価値観が瓦解する衝撃的な体験をした。自分たちは、地震のメカニズムはもちろん、地震の揺れも、地盤のことも、建物の実力もちゃんと分かっている。



各地の小中学校を巡る「減災講演」で、机に中学生を立たせて家の揺れ方を実演する福和



時の総理大臣、小泉純一郎氏に耐震化の重要性を説き、国の耐震化政策を加速させた



減災の啓発活動の原点になったのは1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災

ない。もちろん、耐震研究の進歩は喫緊の課題だ。その一方で、家具の転倒防止や耐震補強が十分に普及していない現実を知り、人々の意識を変える必要も痛切に感じた。「技術開発もいいが、耐震補強を急いでもらわないと、とんでもないことになる」。東海地震の危機が叫ばれるなか、災害から人々の命を守るために、福和は自ら進んで「減災の伝道師」になることを選んだ。福和の厳しい言葉と警鐘の裏には、自分の講演を聴いてくれた人のうちの一人でも本気に考え、行動してくれたらという、ささやかな思いがある。それは、安全への切なる願いから生まれたものに他ならない。

ビルをまるごと揺らす“究極の実験室”で、防災システムの普及を加速する。

福和がセンター長を務める「減災館」は地上5階、最上階の実験室を伴う最新型の防災実験施設だ。地下にある強力なジャッキでビルを“まるごと揺らす”ことができ、東日本大震災で都心のビルを襲った長周期地震動もリアルに再現できる。今年8月、ここで地震のリアルタイムモニタリングシステムのセンサー性能テストが行われた。わずかな揺れでビルへのダメージを予測し、各フロアの危険度を知らせるシステム。福和の目的は、人工的に揺らすことのできる減災館で性能実験を繰り返し、低価格で高性能なシステム開発につなげること。そこには、南海トラフ巨大地震が来るまでに、できるだけ多くの建物により安全なシステムを入れたいとの強い思いがあった。地震大国で暮らす人々の命を守るには、耐震研究と市民の意識を高める両方のアプローチが必要だ。本業の耐震研究に加え、休日を返上して減災を説いてまわってきた福和。彼にとって夢とは「一歩進めばどんどん広がるもの」。福和の夢は、減災の輪とともに広がり続ける。



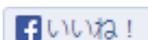
耐震研究の最前線にいた福和は、家具の転倒防止や耐震補強が普及していない実態に気付く



ビルが地盤、最上階の施設が建物の役割を果たし、リアルな地震の実験を行うことができる「減災館」



福和がセンター長を務める、名古屋大学減災連携研究センターのメンバーと共に



数字トリビア



秋の夜長にぴったりな音を奏でるピアノ。その88鍵の音域は、オーケストラのすべての音域をカバーすると言います。オペラやバレエの練習で、ピアノがオーケストラの代わりに務めるのもこうした理由からだそう。ところが、1720年代にピアノが発明された当初の鍵盤数はたったの54鍵でした。それがピアノ音楽の発展や作曲家の求める表現に応じて増え、19世紀後半頃に88鍵に到達。たとえば、モーツァルトは61鍵、ショパンは82鍵のピアノを使っていたことが知られています。その後、92鍵や97鍵のピアノも生まれましたが、なぜか88鍵に定着。その理由には、人間が音程として聴き分けられる範囲に落ち着いた説、演奏者が座ったまま演奏できる限界の幅といった説があります。

ちなみに、88鍵の最低音「ラ」より低い音、最高音「ド」より高い音は、人間には耳障りな音だとか。過去の作曲家たちはそれを知っていて、88鍵以上のピアノをオーダーしなかったのかもしれないね。



NIHOCHICA

読者限定プレゼント

「地方を元気に、日本を豊かに」を実現する、充実のラインナップで日本各地の魅力的な食材が集まったギフトカタログ「47CLUB × RING BELL」の10,800円(税込)分の「郷(さと)コース」を抽選で5名さまにプレゼント!

ご応募はコチラ!



応募期間: 2014年11月11日(火)まで



 ツイート

 いいね!

● 次回配信予定日: 2014年11月12日(水)

[● 配信停止をご希望の方](#)

発行: エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

東京都千代田区内幸町1-1-6

掲載記事の全文および一部の無断転載、引用を禁止します。

(C)NTT Communications 2014 All Rights Reserved.